備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成１７年度～	根拠法令・例規等	備前市立美術館設置条例
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	生涯学習課
	中項目	基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり	職・氏名	主査　光友公昭
	小項目	施　策	01 文化芸術の振興	電　話	８４－３８３９
事務事業名			04 吉永美術館管理運営事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

事業の目的

対　象（誰・何に対して）	郷土の歴史に興味のある方、美術品をギャラリーとして展示したい方
目　的（何のために）	郷土に関する資料の収集・保存を行うと同時に、展示によって郷土の歴史や文化についての理解・認識を深め、郷土の財産として後世に伝える。また、貸ギャラリーとしての貸館業務を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	郷土の歴史や文化についての理解・認識を深める。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
吉永美術館管理運営事業	施設の運営・維持管理・貸館業務	○

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	1,045	808	648
	必要人員　人件費	千円	0.09人　526	0.07人　567	0.02人　182
	事業費計	千円	1,571	1,375	830
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	1,571	1,375	830
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
結果指標	説明	入館者数		
結果指標量	事業	1,276	645	682
対前年比	%	－	50.5%	105.7%
活動コスト	円	1,571,000	1,375,000	830,000
単位当たりコスト	円	1,231	2,132	1,217

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	1000	900	900	700
	実績値（B）	1276	645	682	到達目標値
	達成率（B/A）	127.60%	71.67%	75.78%	900

成果指標設定の考え方・式や説明

年間入館者数実績を目標値と比較する。

事務事業の評価

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☑ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☑ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- 必要性
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- 市民ニーズ
  - ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
  - ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**C**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☑ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☐ 成果指標の設定は適切である
  - ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☑ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☑ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**D**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：全４回の所蔵展を企画。今後ＰＲしていく。

総合評価

美術館としての機能は利用客数の現状を考慮すると閉鎖もやむを得ない状況である。だが、郷土歴史資料の適切な保管を行うところが他になく、市が責任をもって管理運営し郷土の財産として後世に伝えていく事が必要。

評価区分 <A～E>：**D**

平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：利用者数の増加を図りながら、引き続き維持管理を行う。